

私はコートに入ったら 「私」ではなく 「私たち」と考えるようにしている

個人として 学校代表として 全力で そしてフェアプレーの精神で

明日から市中総体が始まります。3年生にとっては、これまでの部活動の集大成の大会です。勝ち抜いたチームや個人にとっては、上位の大会(県大会、東北大会そして全国大会)はあるものの、全市の運動部の生徒が一斉に大会に出場する仙台市中総体は格別のものがあると思います。多くの3年生の生徒達にとって、これで引退という大会でもあるからです。個人としてこれまで積み上げてきた能力を余すことなく発揮してほしいと同時に、学校代表として誇りと責任を自覚して大会に参加してほしいと願っています。

見出しの言葉は、かつてバスケットボール選手として大活躍したマジック・ジョンソンという選手の言葉です。彼は選手時代、ロサンゼルス・レイカーズというチームに所属し、世界最高峰のリーグで5回の優勝に貢献した往年の大スターです。皆さんが生まれるずっと前にプレーしていた選手で、1991年に、病気を理由に引退しました。オリンピックにもアメリカ代表として出場。その時のチームは、初めてプロバスケットボールのオールスターチームで編成され、ドリームチームと呼ばれ、圧倒的な強さで金メダルに輝きました。彼は、卓越した個人技で観客を魅了し、ノールックパスという言葉在世の中に広めました。自分で得点できる場面でも若手や新人にパスを出し、得点させたり、不調の選手に声を掛け、コートの中で励まし、自信を回復させたりしたそうです。解雇寸前の選手に多くのアシストパスを出し、大活躍させ、球団に解雇を思い止まらせた事もあるそうです。そんな彼が大切な試合前のインタビューで、「バスケットはコートの中の5人だけでなく、ベンチの選手、コーチ、スタッフ、家族、観客のすべての力で成立している。私はコートの中に入ったら、私ではなく、私たちと考えるようにしている。その事で大きな力が発揮できる。」と話していたそうです。

生徒の皆さんも、チームとして出場する選手、個人競技の選手、参加の形態は様々ですが、自分だけの力で試合をしていると思わないでください。試合に出場できない悔しい心を抑えながら、チームを支えてくれている仲間がいます。ミスをしてでも明るく声を掛けてくれる仲間がいます。今まで一生懸命に指導してくれた顧問の先生がいます。これまでずっと支えてくれていた保護者の方々もいます。そして全校応援で参加してくれる生徒もいます。思うようにいかない事でふてくされたり、露骨に仲間を批判したりすることなく、しっかりとした気持ちと態度で試合に臨んでほしいと思います。昨日の各部の決意を聞いていると、きっと皆さんは大丈夫と確信しています。

「私」ではなく、「私たち」と自覚し、競技に臨んでください。そして試合が終わった後は、勝った時以上に、負けてしまった時の態度が問われます。勝った時は気持ちよく後片付けもできるでしょう。顧問の先生やコーチ、保護者の方々の話も聞くことができるでしょう。負けてしまった時、まさしくその時の態度が選手として、人として問われます。あくまでも真摯な態度で、フェアプレーで、互いのプレーをリスペクトする気持ちを忘れず、3日間全力で頑張ってきてください。心から健闘を期待します。